

## 12月議会 定例会

# 菊池議長、加茂谷委員 活動認められ表彰 一等米比率は95.6%を確保

令和元年12月議会定例会が12月10日から13日までの4日間にわたり開催され、一般会計補正予算など上程された20案件について原案どおり可決されました。



## 行政報告

### ◆全国町村議会議長会70周年 記念表彰

藤里町議会議長の菊池博悦氏が受賞されましたのでご報告します。

菊池議長は、昭和63年3月の初当選以来から勤続30年以上の永きにわたり、町議会議員として地域社会の発展と住民福祉の向上に尽くされたことが認められ、受賞されたものです。

菊池議長の表彰に対しまして、心からの敬意を表すると共にお祝いを申し上げます。

### ◆全国町村監査委員功労者表彰

藤里町代表監査委員の加茂谷芳文氏が受賞されましたのでご報告します。

加茂谷委員は、平成23年12月25日に就任以来、勤続7年以上にわたり町村等の監査委員として在職し、地方自治の振興発展に貢献された功績が認められ、表彰されたものです。

加茂谷委員の表彰に対しまして、心からの敬意を表すると共にお祝いを申し上げます。

### ◆農業関係について

令和元年産米の集荷状況についてですが、JAあきた白神藤里営農センターの

11月20日現在における集荷実績によりますと、30kg単位での予約数量、66,994個に対し、集荷数量は、63,678個(集荷率95.1%)となっています。

今年、春先から好天が続く、水不足による影響が懸念されましたが、農家の努力と関係機関による稲作情報の提供や、一斉防除作業の適期実施により収量は平年を上回り、1等米比率も能代山本管内で87.8%にとどまるなか、当町は95.6%を確保することができました。

次に、令和2年産米の需要見通しに關しましては、11月20日公表されました、国の基本方針の中では、主食用米の生産量は708万t、717万tとされ、令和元年産米の生産量727万tと比較し、最大19万t減と推計されています。

そのことを受けまして、秋田県では、全国における県産米のシェア率や、適正在庫量、直近の販売状況を踏まえ、県全体の「生産の目安」を、全県担当者会議で示す見込みです。

町全体の生産数量の目安につきまして、町で算定作業を進め、結果を町農業再生協議会に提示することとしています。その後は、方針作成者であるJAの米販

売予定数量と調整しながら、協議会臨時総会の決定を経て、2月頃、町の「生産の目安」として公表される予定です。

一方、畑作等の生産状況についてですが、10月末現在、ネギの生産量は、目標の7.15t、2,734千円に対して、3.68t、1,300千円となり、青果物全体につきましても、目標の9.15t、4,591千円に対し、6.26t、2,837千円と減少しています。今後出荷が始まる「山うど」と「アスパラガス」に期待しています。

取り組み開始から10年目となりましたりんどうにつきましては、採花面積が341.0aで昨年より36.5a減少しており、採花本数は50万4,240本と4万9千本減少しています。単価は昨年度並の45.8円でありましたが、販売額については、23,105千円で2,301千円の減となりました。減収の要因としては、夏場の高温による花焼けの発生があり出荷量が減少したということ、全国的な発生であったため、良いものとあまり良くない状態のものを分けて出荷・販売したということ。また、当初に導入した苗の老化も要因にありますが、現在、順次更新しているところですので、今後も優良産地として、市場での競争力を維持できるよう支援して参ります。

次に、ニホンザルによる農作物の被害防止についてですが、鳥獣被害対策実施隊による週2度の巡回や職員による「わな」設置により、昨年より8頭少ないものの、4頭を捕獲しており、今後アンケートを行いまして詳細な被害状況の把握に